

## 絶好調！



R1. 11. 12 【第32号】

校長 向笠真司

## 思いと思いを合わせた時

## ～あの日の習志野文化ホールでの光景～

合唱祭が終わって、明日でちょうど一週間がたちます。どの学年も、それぞれ様々な事を乗り越えて当日を迎え、緊張の中歌い終えた子ども達の表情は、いずれも力を出し切った「いい顔」をしていたと思います。すべての学年の合唱を終えて3年生全員がステージに上がって歌った学年合唱「河口」は、素晴らしい迫力でホールに響き渡り、歌い終わった瞬間に残響が残ったのがはっきりとわかるほどでした。

その後の結果発表、そして表彰の時にはステージ上であふれる涙を抑えきれない男子もいて、実行委員長の草山雄杜君も、最後の挨拶の時には感極まって話せなくなる場面が何度もありました。しかし、ところどころで客席の生徒から「がんばれ！」「しっかり！」といった励ましの言葉がいくつも投げかけられ、無事、実行委員長としての思いを話してくれました。そして最後の言葉は、体育祭の閉会式での実行委員長、山本竜磨君と同様、「来年は、さらにいい合唱祭にしてくれると信じています！」と後輩たちにバトンを引き継ぐ言葉でした。

その時、私はステージの袖から見ていたのですが、会場全体の雰囲気がとても温かく、和やかで、ホール全体が「温かな思い」に満たされているかのように感じられた光景は忘れられません。最後には、会場にいるすべての人が立ち上がって、今年も「花は咲く」を歌いましたが、ホール全体が歌声で満たされ、会場にいる人々すべてが一体となった感動のフィナーレとなりました。

あの習志野文化ホールでの一日から一週間がたち、子ども達は以前と同じように学校生活を送っています。しかし、体育祭のときと同じように、少し経験を積んで成長した姿がそこにはあります。

子ども達は、ふだんから常に様々なトラブルやストレスを抱え、また、いろいろなことに自己嫌悪に陥りつつ、ともすれば周りとはぶつかりそうになりながら生活しています。

行事のときにはそれぞれの自我がぶつかりあい、さまざまな問題が噴出します。特に、体育祭や合唱祭では、同じ目的に向けて何とか気持ちを合わせようと努力すればするほど、ふだん自分達が目を背けていた事と向き合わなければなりません。そして悩み、考えることで、今まで気がつかなかったことに気づきます。〈行事をやり遂げる〉とは、そういう経験を通して一つ一つ成長するという事なのです。

あれから一週間。でも、子ども達にとっては大きな山を乗り越えた後の一週間です。お互いの思いを合わせようと努力した経験は、子ども達の表情も少し変えたように感じます。今週土曜日には授業参観がありますが、授業の様子とともにお子さんの今の学校での表情をぜひご覧になってほしいと思います。